鵠沼

久久比奴末

はまゆうと桜貝と

海光るわが故里

第 48 号

1989年7月25日

鵠沼懐古写真展　　吉田　興一

鵠沼懐古展出品目録　　塩沢　務

鵠沼を語る会

鵠沼懐古写真展

吉田　興一

1　発端

「鵠沼を語る会」は、鵠沼に何らかのかかわりがある人が集まり、長年住んだこの土地に関することであれ、その間に書き綴つたり、考えたことであれ、それらを克明に記録したり、発表してきました。そして時の流れに従つて遙か彼方に去つてしまつた郷土の古い姿を慈しみ、その世相を文章とか絵図で再現しょうとしています。それは昔の町並み、人情、自然環境などを記憶のひだから呼び戻し、われわれの足跡を確かめることでした。なぜそうするのでしょうか。われわれの存在は、過去・現在・未来と永遠の時の流れのなかで、現在という一点で繋がつています。例えば、過去から現在までの歴史を調べてみることによつて、われわれの未来に希望と期待を描いてみようということにもなります。未来という真っ白なキャンバスに何をかくべきかを念頭において、郷土史の発掘に携わつていると言えましょう。

さて、遡つて昨年９月の定例会を終わつた頃には、そろそろ秋の公民館祭りの準備に入らなければならない時期になつていました。たまたま、「鵠沼を語る会」では、日頃の活動を市民に理解して貰い、新規加入の誘いも表明しなければならないなと感じてて る時でした。それには、祭りの機会を利用して、蓄積された活動の成果を展示物を通して訴えることが、当面の課題となつたのです。視覚を通して人の心に焼きつけるには、漫画とか、イラストなどのように、映像を利用するのが一番である。もしできるのなら、昔の鵠沼の風物を撮影した写真展がいいのではないか。そのような構想でいるとき、故昭和天皇のご病気が報道されてきました。ご病気が重いとのことで、全国民の憂慮が次第に深くなる事態に、公民館祭りが中止と決まりました。写真展の構想が、その緒についたばかりでしたが、折角思いついたのだし、何とか実現できないものかと、中止することに振っきれないでいました。幸い大正から昭和にかけての昔の写真で、塩沢代表が十数年にわたり収集さ

れていたものが沢山あり、これは絶えまない日常のご努力によるものなのですが、これらの作品がありながら、写真展を消滅させてしてしまうのは勿体ないと思うようになつたのです。写真以外の目玉として、岸田劉生の絵画とか、東屋と中屋の写真、長谷川路可の絵画、古地図、空乗寺の徳川三代将軍から受けた御朱印状などを展示して変化をつけ、大々的に宣伝すれば恥ずかしくない立派なものが開催できるとの見とおしがついたのです。最大のポイントは、会の了解をえた上で、いくらの予算を見込めるかということです。６２年度繰越金は７５．１３２円ありました。一方、「やるなら恥ずかしくないもを」という自信が有るのならば、６３年度の会費分をつぎ足しても、会員の皆さんも認めるて下さるだろう。それも、目で見る鵠沼の移り変わりを、一過性の、感傷的なその場限りで闇に消えてしまう程度のものであつては、使つた金が浮かばれない。なかなか得難いチャンスなので、「目で見る郷土史」という鵠沼を語る会の性格を鮮明にして、そして、参観者に感銘を与えるものが望ましい。そこで「鵠沼懐古展」という名称が生まれました。少々横着でしたが、現有予算をたとえ越えても、会にとつては、一大イベントとして値打ちのあるものなら、たとえ、平成元年度の予算に食い込んだとしても、許していただけるものと判断したのです。次に公民館祭りが中止と決まつた時点から開催までの準備期間での協議次第を、時を追つて記してみましょう。

２　準備

（１）役員会

１０月１２日　　（公民館の学習室で）

秋の公民館祭りが中止になつたものの、一時は写真展を計画してみていた経緯から、塩沢氏の現在手持の３０余点をもとに、新たに、珍しい昔の写真を所持されている方々を鵠沼一円から探し出し、公民館と共催で一大写真展を開催してみようではないかとぃうことになつた。

たとえば、秩父宮邸に関する写真がでてきたとか、鵠沼館（こうしょうかん）の写真が高橋良さんの家にあるらしいとか、展示会を開催するのに心強い情報が逸り立つ気持をいつそう助長しました。

１２月１７日　　（公民館の学習室で）

懐古展に関しては、編集委員会の進み具合を報告するとともに写真展の当日の参観者への挨拶文の案を試作した程度でした。

（２）編集会議・・・・実質的には実行委員会

９月２１日

公民館祭りの写真展のことで、新たに仁平さんと遠藤さんのご参加をえて、その展示する作品の決定をおこなつた。そして、「懐古」という字句を採用してみようと決めたのである。

９月２９日

前回選定した写真の見出（キャツチフレーズ）等を決めた。

１０月１８日

公民館祭りは、天皇ご不例ということで中止となり、そのかわり来年３月を開催時期と定め、ほぼ３日間の日程で、「鵠沼懐古写真展」を行うことに決定した。

１１月２５日

塩沢さんが所持しているキャビネ版の写真のほかに、新たに連絡があつて、撮影してきたもの、また、現存歩き回つてみて気がついた昔からの別荘の写真（これは持ち主の承諾をとつたり、何べんも出向いて撮影してみたり、並み大抵の苦心ではなかつた）などのうち、キャビネ版で済むものは何点かを組写真で纏めることとした。昭和１５年に、大藤沢市建設豫定圖を作成した大野守衛町長（当時）のことが話題になり、そのコピーも出品の候補にしようなどが話しあわれた。大正１２年に倒壊した吉村邸の写真は是非とも展示しょう。当時、湘南中学の裏手にあつた藤沢町立特設高等小学校（３年課程）の卒業証書が手に入つたなど、展示品の候補が次第にふえてきた。しかし、これらの収集は、塩沢さん一人に負んぶしている実情であつた。

１２月９日

東京都で「太田道潅まつり」というのをやつており、その情報を根拠に、都庁前の道潅の銅像の写真を下さいと東京都広報部に出向いてお願いした。新潟のひょう湖（瓢湖）は白鳥で有名なので、所在地の町役場に頼んでその観光写真を送つてもらう。塩沢代表とは岸田劉生さんの縁者と文通があり、劉生日記の実物が借りられるそうだ。刈田の大斉藤の

長屋門の写真は是非展示しょう。この門の屋根は、茅葺きの上に屋根瓦が乗っている珍しいものだ。空乗寺の徳川将軍の朱印状は何枚あるのか判らないが、纏めて写真を撮ろう。鵠沼郵便局は初代のからの写真と代々の局長さんの姓名を添えて展示しょう。等々と話しあわれた。また、昭和２０年と４０年の海岸通りの商店の有無を比較できる図面を作ることになつた。

平成元年１月２２日

この日は、懐古展の会場となる公民館の文化活動室の下見をした。参加者は、塩沢代表中村、仁平、遠藤、野口、吉田の６人であつた。

２月４日

昭和２０年と４０年の海岸通りの商店街・・・・昔から鵠沼銀座通りの名で親しまれた鵠栄会の各商店・・・・が、どのような変遷を辿つてきたかを図面の上に書き出し、比較しょうと見取図を試作したので、果たしてその通りかどうか、当時の事情に詳しい地元の方々に検分をお願いした。編集委員以外には、鯨井、大出、三浦、榎本、榛葉（八百力）中村、有田の皆さんでした。

２月１２日

公民館を経て各町内会長さんに配付（市民集会のお知らせに便乗）して、回覧をお願いするため開催のチラシの、最終確認をする。

２月２５日

展示する写真を会場の掲示用のパネルにどのような順序で掲げようかとその組合せを協議した。

３月９日

会場にパネルを並べ、ガラスのショーケースを２脚設置して、運び込んだすべての展示品を掲載し、一切の準備を完了した。

３　開催期間とその所感

開催期間は３月１０（金）・１１（土）・１２（日）日の３日間であつた。最初の１０日は金曜日であつたが、神奈川新聞に大きく掲載されたので、市民の反響も大きいと期待された。来館の一般市民の方が展示品の写真撮影をすることは、これらの作品は主催者の

有形無形の努力と根気と苦心惨憺の結果取得した展示物なので、お断りする方針であり、その旨注意書が場内に貼つてあつた。会場をオープンして間もなく、ＶＴＲカメラを片手にぶら下げた、やせ型のご老人が受付を素通りして中に入り撮影をはじめた。お断りの旨つたえると、なにか不満らしくぐずぐずしていたが、展示品を見るでもなくさっさっと帰つてしまつた。あっけにとられて見送つた次第である。そのとき、なんとなく海賊版のビデオ・フィルムを連想してしまつた。この場内の写真と名のつくものは、塩沢代表の手をとおして、伸ばしたり、また枠とかラベルとかは、有隣堂で調達されたもので、そのご苦労を土台にして編集委員のお手伝いがあつて出来上がつたのである。右から左に店から買つてきたものではない。彼も、目的を言つて、主催者の納得を得て承諾を受けた後に撮影するとか、一連の手続きをするのが良識というものであつた。さて、開催各日の来館者数とか、展示品の目録は別冊に示すとおりであるが、受付をした私の目からみた感想を主として以下述べてみよう。初日の神奈川新聞の記事に引き続き、産経はじめ東京、毎日、読売、朝日などの各新聞社の紙上に、記事の大小はともかく、それぞれ掲載されたのは、それだけ世間の関心を引いた証拠である。公民館にとつても、３月１０日市長室広報課で纏めている「今日の新聞記事から」というレポートにも載つているのを見ても、悪い気はしなかつたと思われる。お年寄りが多かつたのは当然ながら、いづれも満足して会場を去つていかれたのが明瞭であるだけに、やつて好かつたという充足された気分に浸ることができた。また、会場の中では、丹念に見てまわる方が殆どで、連れ立つて仲良く見ている方々の間では、写真を見ながら盛んに喋りあつて、なかなか次に進まず、昔話に花が咲いて思い出に耽けつているのがありありと判つた。塩沢代表が説明している場所はきまつて人だかりで、狭い会場は活気が満ちていた。一日中立ちっぱなしでは大変だなぁと人ごとながら、敬服ものである。大正から昭和初年にかけての商店での人物の風俗とかは物珍しく

松林に囲まれた小田急の線路および鵠沼海岸駅はいかにも寂しげで、さらには海水浴場での水着姿の子供達は別荘族の令嬢、令息であらう。会場は白黒（モノトーン）の写真やカラー写真のなかに、岸田劉生の麗子像とその麗子の作品である絵画、長谷川路可の宗教画が会場の彩りをそえていた。ガラスケースの中には、本物の劉生日記とか東海道の絵巻物、ついこの１月に崩御された昭和天皇がご存命中に撮影された天皇ご一家の団欒写真な

どが、ひとびとの心にさざ波を与え、とにもかくにもバラェテーに富んだものでした。歴史的にみても、東屋とか中屋の模様を伝える組写真、故昭和天皇が秩父宮邸においでになつた写真及び軍服姿の砂丘上で田中義一大将や上原勇作（のちの元帥・・・ご子孫は鵠沼に在住）らを従えての立像のものなどは、時の流れの厚みを伝えるものでした。徳川将軍家から碌高を保証する朱印状は空乗寺に下しおかれたもので、古えから続いた、神明様の氏子であつた鵠沼村を偲ぶにふさわしく、鵠沼皇大神宮の現在の写真とともに見る人の心に残つたことでしょう。あとは、鵠沼新田、鵠沼村、石上渡し、相模国等の絵図、村落等を色分けした古地図とか、鵠沼一円の大正１２年と昭和６１年の地図が大きく掲げられ、小学生も含めて多くの人が覗き込んで、熱心に比較していました。「私の家にも何やら古くから伝わつた由緒の判らない物がありますよ。」とか、一度戻つて再度お年寄りを連れて来られ往時を懐かしがられている方も見受けました。期間中に、気がついて鵠栄会の”はっぴ”を持参した元会長さんもありました。”はてな！”と称して鵠の字の偏が、告か牛のように突き出ているものか（ワープロでも二通りあり、このワープロは鵠です。）どちらでしょうか？という問い掛けも面白かつたと思います。また、昔の写真がとりもつ縁で、遠い親類に邂逅されて嘆声をあげた方も出まして、思わぬ付録に喜ぶ場面まで与えてくれました。まだ色々な出来事があつたでしょうが、この懐古展が開催されたことにより鵠沼に住む人々の心に何か共通するものが吹きわたり、連帯意識のょうな親しみを植えてくれた気がします。そして、鵠沼の郷土史に関して、われわれの間でよく話題にのる方々、高木和男さん、有賀密夫さんなどのが熱心にご覧になり、収集品の豊富なこと、展示品の広範囲なこと、および根拠が確実で記録の正確なことに感服してその旨口にして帰つて行かれました。市役所関係では、元教育長の小山さん、現教育委員長の大町さん、社会教育部長と社会教育課長のほか鵠沼在住の田中、山口、関根の職員各氏など来館されていました。

4　出品目録と来館者人数

（１）出品目録は別に一冊に纏めました。

（２）来館者数は３日間をとおして１３００人でした。　　以上

鵠沼懐古展出品目録

鵠沼公民館（平成元年３月10,11,12日）　塩沢　務

１，大漁旗。

２，新造船祝旗（鵠沼漁場）。

３，商店街（鵠沼銀座）昭和20-40 年の移り変り表。

４，相模国興地全図。

５，昭和天皇、摂政宮時代大正10年11月陸軍大演習鵠沼海岸御立所

６，秩父宮昭和27年１ 月20日鵠沼御別邸へ御移転（写真鵠沼別邸）

７，秩父宮と御愛用の剣道具。

８，秩父宮鵠沼御別邸。

９，昭和天皇御出迎えの宮邸前、各皇族の方々昭和28年１月４日。

１０，昭和天皇、秩父宮の御見舞いを終えられて御別邸門前。

１１，秩父宮殿下とお別れ、御遺体は鵠沼御別邸を後に宮内庁分室

昭和28年１ 月９ 日。

１２，入江侍従長日記

１３，昭和7,8 年頃の鵠沼海岸鉄道省海の家。

１４，吉村鉄之助氏別荘震災前建物、大正12年９月１日東久邇宮妃殿下（久邇宮良子女王殿下８月中旬御帰京）御滞在中、震災家屋全潰第二王子師正殿下御死去された。

１５，正月の獅子舞、一木町長邸。

１６，空乗寺御朱印状、徳川三代将軍家光候より十代将軍まで。

１７，皇大神宮、創立天長９年(832) 天喜3 年(1055)社殿を再建、大庭御厨の総鎮守。

１８，賀来神社、大分郡由原八幡の摂社、賀来神社の御分霊を江戸神田淡路町大給邸に勧請、明治38年８月鵠沼別荘地守護神奉祀。

１９，明治20年頃の鵠沼海岸別荘建設。

２０，大正時代、鵠沼海岸地引網。

２１，大正８年鵠沼海岸で遊ぶ別荘のお嬢さんたち。

２２，大正１５年鵠沼海岸へ、朝日新聞社の飛行機が着陸。

２３，昭和初期、引地川の「シジミ取りと鵠沼塩湯温泉」。

２４，昭和のはしめ、鵠沼海水浴場。

２５，昭和のはじめ、片瀬山より富士山を望む。

２６，昭和のはじめ、鵠沼小学校「おざをなおして」机を直して。

２７，昭和のはじめ、鵠沼風景汐留橋の時雨。

２８，昭和２年夏地引網の魚を運ぶ漁師。

２９，昭和２年夏魚を運ぶボテフリ。

３０，昭和２年鵠沼海岸でカメラ（ピコレット）をのぞく少年。

３１，昭和３年鵠沼海岸の海開きこの日は藤沢から綺麗所が来て手踊りを見せるのが恒例となっていた。

３２，昭和３年鵠沼小学校水泳部、鵠沼海岸。

３３，昭和６年頃の町営鵠沼海水浴場、向うは鵠沼橋。

３４，昭和６年頃湘南遊歩道（134 号）鵠沼渚橋脇に日大水泳部の寮

３５，昭和７年鵠沼海水浴場中央のヤグラは看視所。

３６，昭和７年鵠沼海岸の賑い。

３７，昭和７年頃の鵠沼海岸海の家。

３８，昭和10年鵠沼海岸にＳ６年鉄道省海の家開設。

３９，昭和11年鵠沼自警団、東屋と自警団表彰状。

４０，昭和12年県営鵠沼プール竣工14年町営に移管された。

４１，大正２年河本商店、甘酒の店、鵠沼美やげ黄金飴。

４２，大正４年明月庵、有田商店発祥の地（現八百利店跡）。

４３，大正６年岸田劉生自画像。

４４，大正12年岸田劉生「鵠沼日記」１月26,27 日９月１日（復刻）

４５，昭和56年岸田麗子「雨の前の桜島」。

４６，岸田夏子「想い出」（劉生の孫）。

４７，大正２年長谷川路可15歳「浜辺にて」第１回院展入選。

４８，大正２年長谷川路可15歳「少女像」。

４９，大正４年長谷川路可17歳「工場の裏」第２回院展入選。

５０，昭和３年長谷川路可30歳「江の島遠望」。

５１，昭和14年長谷川路可41歳「ルルドの聖母」。

５２，昭和14年長谷川路可41歳「十字架の道行き」。

５３，昭和24年長谷川路可51歳「聖親子像」。

５４，昭和25年長谷川路可52歳「歩む釈迦像」。

５５，長谷川路可画伯の面影写真と松風誠人の作品。

５６，百両山の三越クラブ、写真正面と裏庭２枚。

５７，鵠沼に実在する別荘、写真１４枚。

５８，中屋旅館主人田中兼氏、明治32,3年頃鵠沼海岸別荘に、住み向い側の対江館３階建てを買収中屋旅館と改称した、吉屋信子、島田清次郎、横堀角次郎が永留、貸別荘も50軒余造り、別荘人のため簡易水道、松の湯、魚屋、八百屋、豆腐や、クリニン屋

等鵠沼商店街の走りを造った人である。

５９，震災後の中屋旅館（震災前３階建て）江戸屋食品店の場所に藁葺屋根の旅館の門があった。写真３枚

６０，旧東屋旅館明治25年伊東将行氏建設。主人長谷川栄氏。

６１，明治３１年風俗画報「鵠沼の図」と東屋解説。

６２，明治40年「鵠沼海水浴場、東屋領収證」。相州鵠沼東屋旅館玄関。東屋お姉さん。東屋庭園舟遊びの長谷川欣一氏、村瀬幸子氏。相州鵠沼東屋庭園、絵葉書４枚。東屋庭園２枚。

６３，郵便の由来について、明治４年書状集箱（木製都市用ポスト）

６４，明治３９年鵠沼郵便局創設一代目、旧東屋隣り。

６５，昭和２３年鵠沼海岸に銀行が出来た。横浜興信銀行藤沢駅前支店鵠沼出張員詰所、男子１名女子２名商店街（関根靖浩氏宅１階間借り）営業した、さすが鵠沼の人は金持ちで銀行員が集金したお金は用意した金庫に入りきらず、お金を関根さんへ預けて帰る日が多くなった。２５年支店昇格。２６年（大沢肉店）場所へ新築移転開業。３２年商号を横浜銀行鵠沼支店変更。

６６，鵠沼郵便局二、三代目（鵠沼海岸郵便局）２枚。

６７，大正９年１０月１日第一回国勢調査記念と高座郡役所。

６８，明治２０年７月１１日開業当時の藤沢駅、（横浜一国府津）。

６９，明治３５年９月１日江の電鉄開業当時藤沢駅。昭和６年乗車券

７０，昭和４年小田急江の島線開通、開通当時の本鵠沼駅。

７１，小田急藤沢駅前の藤沢中央劇場。

７２，藤沢町役場

７３，町立鵠沼尋常高等小学校。

７４，昭和８年町立藤沢高等小学校開校、藤沢、鵠沼、明治３校の高等科実業科目として農業、工業、商業の三科目を置き、生徒に各其の一科目を選択し、外国語として英語科、家庭科、裁縫、料理等を教えた。（現市立第一中学校の前進）

７５，昭和２１年開校当時の鵠洋国民学校。

７６，昭和１０年神楽舎松岡静雄氏「湘南国語研究会誌」発行。

７７，昭和１２年５月「松岡静雄先生之庵跡」記念碑。

７８，鵠沼女子高等学校、大正１４年平塚家政女塾として発足、２０年７月空襲により校舎備品を焼失、９月藤嶺学園女子中高学校と改称、３１年鵠沼柳小路移転、１０月鼓笛隊誕生、３３年藤沢まつり、横浜まつり、３５年大岡ビックパレード参加、３７年長野県飯田市おねり祭に参加、ＮＨＫ、万博、銀座祭等参加

７９，昭和８年４月玉川学園分校として開園、（松本源三郎氏別荘）９年湘南学園小学校、幼稚園と改称創立、２２年中学部２５年高等部、２６年学校法人。

８０，鵠沼堰、八部の田圃用水口。

８１，昭和１５年引地橋（旧東街道）。

８２，明治２０年山本橋江の島街道石上の渡し（現上山本橋）。

８３，昔の土橋。

８４，片帆橋、此の橋を渡って鉄道省海の家があった。

８５，昭和６年前は日の出橋、引地川鵠沼と辻堂別荘地の唯一橋。

８６，金堀山空乗寺、浄土宗創立永禄年間（1558-70)旗本大橋重政は

領地の　内九石を空乗寺に寄進し慶安２年(1649)朱印地となる

８７，密厳山普門寺、真言宗開山良元創立享禄(1528)本尊不動明王で毎年１月１５日山伏の火渡りが拝観出来る。

８８，清光山万福寺、創立寛元３年(1245)開山源海は親鸞の高弟で、江の島において感得した本尊をまつったと伝えられる。

８９，夢想山本真寺、浄土宗開山颯田本真尼創立明治３６年鵠沼海岸細川候爵家別荘内に慈教尼を建て大正１２年震災に全潰し鵠沼海岸7-1 ｉ移転再建された。創立より尼寺である。

９０，善光山法照寺、創立享保年間(1716-36) 頃、一説に寛文元年（1661) 龍保創立説もある。宝永元年(1704)欣誉により中興、昔はお祭に縁日がでて賑いだ。

９１，千社札、家紋に相州鵠沼鯨井２枚

９２，皇大神宮新社殿、昭和天皇在位６０年記念事業として境内整備をはじめ、本殿は四百年ぶり、幣殿、拝殿は６３年ぶりに氏子崇敬者が御造営された。

９３，お宮参り、昭和の初め頃皇大神宮（烏森神明様）

９４　皇大神宮例祭日８月１７日珍しい人形山車９台が出る。

９５，賀来神社、大分由原八幡本社摂社賀来神社の御分霊を江戸大給（松平）家より勧請した。鵠沼別荘地守護神である。

９６，新田宮、烏森神明様（皇大神宮）を勧請うし新田部落の守護神である。

９７，石上神社、江の島街道石上渡し場、北側に石上（砥上）地蔵尊並んで居た、村民は大明神とたたえている、部落の守護神。

９８，鵠沼伏見稲荷神社、創立昭和８年京都伏見稲荷大社より勧請した、例祭日８月９，１０日、鵠沼生れの海岸育ちの四美人。

９９，龍神様と龍宮橋、龍宮橋の名付親「龍神様と八大龍王碑」は現在は辻堂浜見山藤沢市漁業協同組合敷地へお引越した。

１００，「鵠沼先人の貴い足跡。」天明６年(1786)藤原提修築碑。

１０１，大正９年(1920)鵠沼海岸別荘地開発記念碑。

１０２，昭和８年中岡耕地整理紀功碑。

１０３，昭和９年引地川改修紀功碑。

１０４，昭和１２年本鵠沼耕地整理記念碑。

１０５，昭和４３年鵠沼内田土地区画整理組合落成記念碑。

１０６，昭和６１年高座郡藤沢町鵠沼耕地整理事業完成碑

１０７，承応４年石上（砥上）地蔵尊、(1655)建立石上船渡しの北側に現在もおわす。

１０８，天保１４年高根地蔵尊、堀川部落の山上新右衛門が建立、鎌倉時代の合戦に若君と郎党４人が最後を遂げた。

１０９，文化６年出羽三山供養塔、(1809)建立され、出羽三山とは奥羽地方の月山、湯殿山、羽黒山のこと村民の間に山岳信仰厚かった、原の辻、徳富蘆花「思い出の記」の文中出てくる。

１１０，万治三庚子「江の島近道の道標」４月８日直誉西入(1660)東海道を西から来て、車座（ 車田 ）湘南高校前バス停付近の地名で「十方庵遊歴雑記」によれば車座路という、（湘南中学通り）ここから１本松路切、鵠沼新田を経て石亀（石上）に出て江の島街道に合流した、大山、江の島信仰の楽しい旅路。

１１１，大橋重政の墓、重政が徳川家光に「筆の師」その功により「御朱印」を賜る。

１１２，大正１２年「御遭難記念碑」東久邇宮妃殿下と三王子が鵠沼海岸吉村別荘御避暑中、関東大震災別荘が全潰第二王子の師正（当時６歳）を亡くされた。その記念碑が33年頃から行方不明となっていたが56年東京港区本妙寺の墓地で確認した。

１１３，本鵠沼の「火の見櫓」。

１１４，大正時代の「鵠沼海岸通り」。

１１５，大正時代の「海岸商街」。

１１６，「斉藤百貨店」宝屋酒店前辺り、大正１２年震災全潰。

１１７，「斉藤百貨店制服姿」大正１０年頃。

１１８，昭和８年関根善太郎氏宅消防出初式。

１１９，大正１３年開業「ライオン堂」写真材料も取扱い。

１２０，「植文職人集の八木節奉能」紀元2600年（服部別荘）。

１２１，「浜道通り」。

１２２，「海岸通り」江の電鵠沼駅から大曲りまで大きな別荘が三軒。

１２３，昭和２年５月新道開通記念碑、一本松踏切ヨリ南３百２０間６丁目ヨリ右旧道百間拡張工事寄附連名。

１２４，大正１５年「藤沢町水道の発祥地」は鵠沼石上文献。

１２５，明治39年、「鵠沼海浜医院」開業陸軍軍医福田良平先生、小田原、長後、逗子から患者が門前列をなして診察を乞うった。

１２６，大正２年、「高松内科医院」高松貞夫本鵠沼に開業。大正14年海岸に併設した分院と合せて高松病院、昭和２年伝染病棟併設

１２７，大正15年，「富士山医師」芥川龍之助の手紙（作家）。

１２８，昭和11年４月20日藤沢町報、第１号。

１２９，昭和16年４月５日藤沢市広報、第１号。

１３０，昭和34年２月25日藤沢市広報、第209 号鵠沼公民館竣工。

１３１，昭和51年９月25日藤沢市広報、第632 号鵠沼を語る会。

１３２，昭和13年「鵠沼辻堂地図」海軍砲術学校製作。

１３３，「引地川風景」昭和２年、河口船付き場。

１３４，昭和10年頃、汐止橋。

１３５，昭和10年頃「鵠沼海岸の海開き」毎年晴天を祈る役員さん。

１３６，昭和15年「雪の鵠沼橋」市営住宅と中野無線学校。

１３７，昭和20年「河口散歩姉妹と愛犬」。

１３８，昭和15年、海の家土産品楽焼の店。

１３９，昭和16年頃「鵠沼橋」。

１４０，戦後河口の、鯊つり。

１４１，引地川、河口さまざまな変化。

１４２，昔の土橋。

１４３，昭和10年「聶耳記念碑」中国人で中国の国歌（義勇軍行進曲」を作曲した音楽家で昭和10年日本へ亡命鵠沼海岸で遊泳中溺死昭和29年中国紅十字会長李徳全女子一行が参拝された。

１４４，日本列島難読地名、北から南。「神奈川鵠沼」（別紙）

１４５，鵠沼地名の由来。

１４６，太田資長「道灌」(1432-1486) は扇谷上杉家の執事太田資清の子して生れ、９歳で建長寺に入門学問、兵法、詩歌、管弦に長じた。大庭城は大庭三郎景親の居城、後太田道灌が暫時居城さ

れ。「わか庵は松原つゝき海近く富士の高根を軒端にぞ見る」

１４７，明治24年、大隈重信と鵠沼、書状１通。

１４８，鵠沼と西行法師、加茂長明、太田道灌の詠歌。

１４９，西行法師歌碑、辻堂熊の森。

１５０，鵠沼特産「松露」春～秋、鵠沼海岸の松林の地中～地上に群生した。10年位の若い松林の下に多く見られた。昔は鵠沼の特産品であった、卵形、球形表面は白色さわると赤色になる、成熟すると黄褐色になる。吸い物等に使用される。

１５１，鵠沼小学校電話架設御礼状。

１５２，享保13年「江戸幕府鉄砲場絵図」(1728)その後明治維新に至る約１４０年間にわたって利用された。

１５３，江戸時代、「石上渡し場絵図」。

１５４，江戸時代、鵠沼村絵図。

１５５，安政２年、「安政江戸地震」江戸三度飛脚問屋仲間口上。

１５６，大正15年、「大正12年地震災害寄附金感謝状」。

１５７，「航空写真で見る鵠沼移り変り」昭和２９年～６０年。

１５８，大正15年、鵠沼町図。

１５９，昭和61年、鵠沼図。

１６０，江戸末期、新田絵図。

１６１，江戸期前、相模国絵図。

１６２，昭和10年、東京大学服部博士によって発見「鵠沼蘭」命名された、鵠沼の地名が付いた蘭がその後土地開発等で植物学者に姿を見せず58年4 月に 健在な姿を見せてくれました。

１６３，明治41年３月町村合併に就いて、高松町長就任挨拶状。

１６４，明治41年６月「大字鵠沼」設置の件、神奈川県知事宛。

１６５，藤沢町徽章（大正10年6 月17日制定）。

監修　塩沢　務

鵠沼懐古展に資料出品

ご協力を賜わった方々（敬称略）

浅場　一
有田有一
伊勢憲一郎
蛯子克郎
大出サキ子
柿沢忠夫
鍵渡久代
上村安一郎
岸田鶴之助
岸田夏子
鯨井義一
斉藤功
坂本昭一
春原淳三
関根慎悟
関根総四郎
高橋良
田所敏夫
野口ゆくえ

榛葉昭一
平本武
福田千代
福地誠一
深谷百合子
丸山久子
三浦登美江
山本竜太郎
吉村鉄郎

江の電６０年史
鎌倉中央図書館
（株）求竜堂
空乗寺
鵠沼女子高等学校
県立近代文学館
県立湘南高等学校
皇大神宮

鵠洋小学校
国鉄百年写真史
逗信博物館
東京都庁情報部
日本橋三越
新潟県水原町
普門寺
藤沢市役所
藤沢第一中学校
藤沢小田急
藤沢有隣堂
風俗画報（M31）
本真寺
横浜銀行70年史

「鵠沼」平成元年７月２５日４８号

平成元年　７月２５日　発　行

鵠沼懐古写真展　吉田　興一

鵠沼懐古展出品目録　塩沢　務

発行所　鵠沼公民館

藤沢市鵠沼海岸2-10－34

電　話　33－2001

編　集　鵠沼を語る会　代　表

塩沢　務

藤沢市鵠沼海岸3−12−33

電　話　36－7876